

<平成25年2月開催「自転車セミナーDX」>報告書

日 時：平成25年2月18日（月）13:00～14:30

場 所：日本自転車会館3号館1階イベントホール
（東京都港区赤坂1-9-3）

講 師：浅田 颯 氏（エキップアサダ監督兼代表）
栗村 修 氏（宇都宮ブリッツェン監督）

司 会：白戸 太朗 氏（スポーツナビゲーター・アスロニア代表）

テ ー マ：「日本人がツール・ド・フランスに勝つためには」

<要旨> 皆様、本日はお集まりいただきありがとうございます。司会進行を務めます白戸太朗です。

私は、スポーツナビゲーターでありアスロニア代表であります。

今回のテーマは、ズバリ『日本人がツール・ド・フランスに勝つためには』です。

最近では、新城選手をはじめ日本人選手が「ツール・ド・フランス」に出場することには、特段、驚きを持たなくなっておりますが、まだまだ、総合優勝はもちろんのこと、ステージ優勝も果たしていないのが現状です。こうした中、勝つためには何が必要かということ、現役時代はトップレーサーとして世界をまたに活躍され、海外のレース事情にも詳しい、浅田さん、栗村さんをお招きして、存分に語っていただきます。

また、5月に開催されます「第16回ツアー・オブ・ジャパン」の3ヶ月前ということでもあるため、「ツアー・オブ・ジャパン」を中心とした、これからの日本のロードレースの果たす役割や今後の展開など語っていただき、日本における「自転車ロードレース」、「自転車競技」を盛り上げて、「自転車市民権の確立」へと繋げていければと思います。

それでは早速、本日の出演者、講師の方を皆さんにご紹介いたします。

浅田 颯（あさだ あきら）氏は、選手として、「ツアー・オブ・ジャパン」の前身である、国際サイクルロードレースで活躍し、東京ステージで引退レース後15年間は後進の指導にあたり、現在、エキップアサダの監督兼代表であります。

栗村 修（くりむら おさむ）氏も、浅田氏同様に選手として国際サイクルロードレースで活躍し、17歳でフランスへ自転車留学し、ツール・ド・フランスを根底から見てきました。

引退後は、後進の指導にあたり、現在、宇都宮ブリッツェンの監督であります。

紹介を終え、セミナーの開始

日本人選手の強化策とは？

浅田さん…強い選手と弱い選手との違いは、才能によるものである。

ヨーロッパには、強い選手だけでなく、弱い選手も多数いる。

自転車レースは、レースを繰り返すことがトレーニングとなる。

地域の違いもあるが、才能の選別次第で勝敗が決定する。

栗村さん…強い選手は、力の出し方が違う。勝負どころでは、それなりの力を出す。

要所、要所での力の出し方を変え、集中力と計画性をもって年間70～80レースを走るなど。

日本人選手の育成方法は？

栗村さん…まず、カテゴリーの低いレースで勝利してプロ選手になる。

近年、選手をレース以外で育成する傾向がある。

また、自転車競技人口を増やすには、子供の頃から育成する必要がある。

フランスには、多数の選手がいるが、ツール・ド・フランス（以下、「ツール」と表記）においては、ここ30年間優勝者が出ていない。

近年は、新興国からも優勝者が出ています。

日本は、競技の研究をするとともに、競技人口の拡大を目指すべき。

浅田さん…日本の自転車競技は、世界レベルまで、もう少し。

多数の日本人選手が、ヨーロッパで奮戦。

近年では、フランス、イタリア、スペインなどの自転車先進国が、オーストラリア、イギリスなどの新興国に負けている。

TOJの国内チームの位置付けは？

栗村さん…チームのレベルとしては、ステージ優勝・ヒルクライマーや総合優勝を目指している。

目標をもって選手のレベルを向上させる。

勝利するためには、選手のモチベーションを上げる

対策として、どのレースに出場するか。→それは、賞金や集客数などにより変わる。

TOJをはじめ、他の国内レースの質が上げれば海外選手も参戦してくる。

ツールと同レベルのレースを、日本で実施するのは難しいが、1クラス上のレースを実施するのは容易である。

チームは、何をすべきか？

栗村さん…チームが出来ることは少ない。

選手<チーム<レース<自転車競技連盟の序列の関係のため、チームは、弱者であり、出来ることが限定される。→日本のチームを連携して大きなものとして扱えば。

各チームの目標は、資金がショートすれば達成不可能となってしまう。

日本では、ジャパンカップやTOJなどワンディやツアー等、レースの国内開催数が少ない。

浅田さん…ステージレースには、ドラマがあり、おもしろい。

チームは、それに走って参加することにより、ワンディやロードレースとは、趣が違う。

ステージレースは、必要か？

浅田さん…2つの理由がある。

- ・自転車競技の拡大に繋がる。
- ・選手強化策になる。

ツール（ステージレース）のように訴求力があり、身体負担少なく、連日走行可能。

また、ワンディは、表彰3位までだが、ステージは、表彰が多岐。

チーム運営やチーム作りにおける強化策とは？

栗村さん…実業団チームは、企業の一部署であるため、財政面の関係で、活躍の場を世界に目指していない。

宮田工業が廃部した経緯から、これからは、独立型チームが主流。

独立型は、自ら資金集め。→地域密着型で集金可能

宇都宮ブリツェンは、年間予算 2 億 5 千万 / エキップアサダは、1 億円弱

↑

資金集めが出来れば、予算に上限なし。

浅田さん…ツール出場には、基本 10 億程度必要。(2 億程でも可能だが)

トップチームは、30~40 億程度必要。

1 チームで 10 億達成は、不可能。

日本の自転車の知名度を向上させないと困難な金額。

単独では現実的でなく、各チームが連携し目標額の達成を。

ロードレースの認知度とステータスが必須。

ツールを 1 チームが目指すのは、現実的でないため、強化策はあるか？

浅田さん…早期に世界を見聞。(ネットでも可能だが現地での情報収集で、状況把握)

海外レースに参戦するのも一理。

国内レースをハードにさせる。

自転車の裾野を広げるためにも自転車が カッコいいというイメージを与える機会が必要では？

栗村さん…自転車競技連盟とチームだけでは駄目なため、素晴らしいレースを身近に作るなど。

自転車に強くなり、好きになるべく自転車競技人口を増やすための機運には、何が必要？

浅田さん…レースを盛り上げるトップ選手数が不足している他、競技力も劣っているため、通用する選手を強化していく。

他競技から自転車競技への人口増加策は？

浅田さん…自転車に転向してくる選手は少ない。

基本、スポーツは、メジャー志向のため、自転車で競争する楽しみやイベントを開催することも方策では。

サプライズゲストとして、片山右京氏が登場

片山さん…私自身、自転車界に、ここまで携わるとは思ってなかった。

私は、モータースポーツ出身のため、栗村、浅田両氏の活動は、参考になります。

自転車は、マイナーな乗り物であるため、啓蒙活動が必要。

モータースポーツは、TVの放映権等があり、強くないといけない前提条件がある。

自転車は、素晴らしいスポーツだが、結果を出さないといけない。

チーム右京の立ち上げが、ツールに出場するという目標はいい。

栗村さん…しかし、宇都宮は、あえて世界を目指さない。

右京氏の自転車界への参入は、他競技からの流入を促進できるか？

片山さん…自転車の持っている可能性を引き出せば。

すばり、ツールに勝利する方法は？

片山さん…モータースポーツより資金が掛からない。

日本に必要なのは、地域おこし。

ツールも、予算を集結させれば、費用対効果で実現可能となるのでは。

浅田さん…社会での自転車の必要性を啓蒙出来れば、自転車競技が活性化するのは。

最後に、「自転車に関するあらゆる知恵等を終結させて、自転車競技を盛り上げて行きましょう。」と締めて、本日の講演は終了した。

次回の「自転車セミナー」ですが、3月12日の火曜日、午後6時より、自転車会館11階において、日本損害保険協会の西村生活サービス部長を講師にお招きし、「自転車の事故と保険」をテーマに、講演を行います。

<セミナーの様子>



「この事業は、競輪の補助を受けて実施しました。」

「RING!RING!プロジェクト」 リンク先：<<http://ringring-keirin.jp>>

